

「北辰会」解散について思うこと！

29期 竹本治男（大鶴）

今年12月31日をもって解散することが決定され、5月26日（日）ホテルプラザオーサカで解散総会・懇親会が盛会に開催されました。岡田会長から「北辰会は日本の定時制課程同窓会では最も優れた活動を行っている同窓会である」と述べられました。

私にとっても素晴らしい学校での学びであったし、素晴らしい恩師や先輩・同級生に出会い、卒業後の人生において言葉には表現できないぐらいの感動をもらい、北辰会報や記念誌、特に北辰会HPには大変なエネルギーをいただきました。自宅のパソコンや携帯電話でいつでも拝見することができ、嬉しい限りです。

2009年（平成21年）に定時制課程が閉校してからの15年間、前田事務局長はじめ兼田事務局次長には日々ご多忙の中、大変お世話になりました。

私は1970年に卒業して54年…今年の4月に喜寿になっても青春のオアシスである母校を忘れることはありません。

恩師、青木三郎先生には大変お世話になり、励ましていただきました。

「日展入選おめでとう。夢をあきらめずチャレンジを持ち続けられた貴君に敬意を表します。人間だれしも夢をあきらめずに、チャレンジ精神を持ち続けることが大切であることを実証された証です。おめでとう！」とお手紙をいただき、胸が熱くなり涙がポロポロ…ほめていただくと大変嬉しく頑張る要素になっています。現在も年賀状やお手紙を頂戴し感謝しております。

父親が胃がんで早く亡くなり、母親が子供6人を必死で育てくれました。義務教育を終え、社会の荒波にもまれ、雑草のごとく生きてきた私ですが、小学校の学芸会（今の文化祭）で「治男は習字がうまいなあ！」と褒めてくれた母の言葉が忘れられず、いろいろな人の出会いに感謝しながらチャレンジしてきました。

現在、5歳から97歳までの人を教えています。教えることは教えられることでもあり、書道が私の人生を大きく色どってくれました。生きてきたあかしが少しずつ残ってきて法外の喜びです。

「積み重ね、積み重ねても、また積み重ね」の言葉のように努力し精進して参ります。北辰会の皆様、ありがとうございました。



大切にアルバムに保管している写真から



1966年(昭和41年)私18歳・入学した同期と北条憲明先生
(筆者：前から3列の右から5人目)



文化祭の集合写真 (筆者：前列の右から2人目)

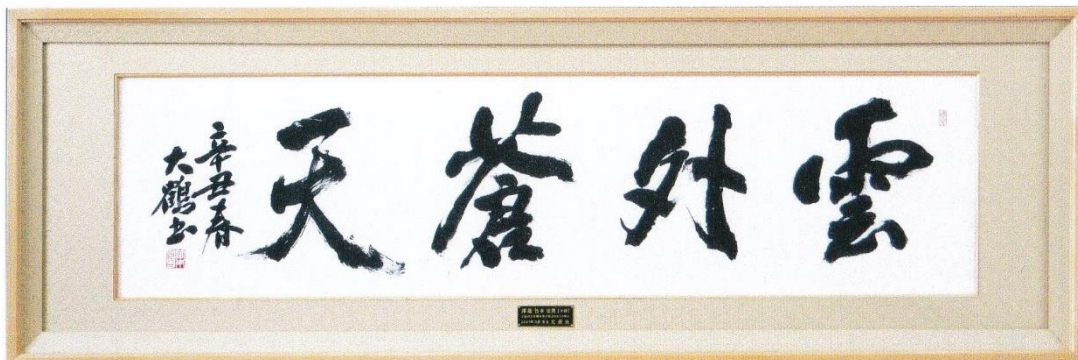


体育祭（1年1組の皆さん）（筆者：前から2列目の右端）



3年2組（両部先生）（筆者：前から2列の右から3人目）

生きてきたあかしの写真を数枚



北野高等学校 校長室に掲示

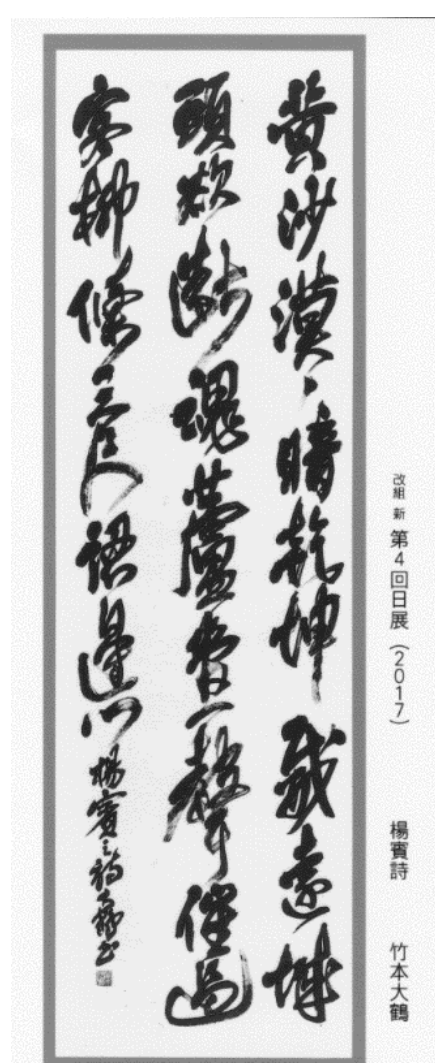


第44回日展 (2012)

渡雙溪

竹本大鶴

2012年(平成24年)
日展入選作品 (2回目)



改題新第4回日展 (2017)

楊寶詩

竹本大鶴

2017年(平成29年)
北野高校北辰会記念室贈呈作品



桜井市相撲神社
(勝利之聖・野見宿禰揮毫)



相撲神社
(徳勝龍優勝記念碑揮毫)

2024年(令和6年)6月20日 記